

令和４年度 北区地域保健推進協議会 摘録

日 時：令和４年１２月１９日（月）午後２時～３時３０分

場 所：北区役所本庁舎３階 大会議室

出 席：委員１１名（欠席６名うち委任状提出４名）

事務局（鍵村保健福祉センター長、和田子どもはぐくみ室長、野竹健康長寿推進課長、永井健康長寿推進課担当課長、河内障害保健福祉課長、藤内子どもはぐくみ課長、阿部保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課担当課長、有原保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課担当課長補佐、藤井地域支援係長、天野地域支援担当）

（司会） 野竹健康長寿推進課長

１ 鍵村保健福祉センター長挨拶

２ 委員自己紹介

事務局より本会の出席人数について報告

出席が過半数を超えており、会議が成立していることを確認

事務局職員紹介

地域保健推進協議会について

３ 議題・報告

（１）部会長、副部会長の選出等について

部会長 西陣医師会長 水谷委員

副部会長 北医師会長 余委員

（２）令和４年度北区役所保健福祉センターの取組について

（説明 永井健康長寿推進課担当課長、河内障害保健福祉課長、藤内子どもはぐくみ課長）

質疑応答

（委員）

精神障害者が５年前と比較して３割増ということだが、内訳はどうなっているか。

(事務局)

内訳について、統計がないため感想になるが、いずれかの特性が著しく増加したわけではなく、全体的に増加していると思う。

件数の増加には、コロナ不況の影響がある。手帳を申請することで、自立支援医療が適用になる、公的サービスを受けられるなど経済的に助かるため、申請をされる方が増えている。

(3) 意見交換

保健福祉センターの取組に対する意見、新型コロナウイルス感染症の影響により各方面で生じた課題及び感染防止と両立した新たな取組等について

(委員)

令和2年、3年と中止となった集団健診が、今年度は開催場所を各小学校から区役所に変更して再開され、医師派遣の調整を担っている。区民からは、開催場所が遠くなったことや、感染対策のため予約制を採用したことにより、以前より行きにくくなったとの声がある。またその結果、従来集団健診を利用していた人が、指定医療機関で特定健診を受けるようになっていっているように感じる。

また、コロナワクチンについて、令和3年度(1・2回目)は旧北消防署で集団接種を行ったが、その後は北区での実施がないため、地域の医療機関での個別接種が主体となっている。

医療機関では、発熱外来に加え、コロナワクチン接種、インフルエンザ予防接種と対応に追われており、現場は混乱しているが、自分ができることを粛々とやっているところである。

(委員)

北歯科医師会は、区役所と連携して様々な取組を行ってきたが、コロナの影響で実施しにくい事業もあった。

今年度は、区役所と介護予防推進センターと協働して歯の無料相談は行った。例年行っていた「歯のひろば」が令和3年度は動画配信となり、今年度は他職種との対談も予定していたが、コロナの感染状況を考えると開催できるか不透明な状況である。

新しい取組としては、栄養士や調理師とコラボして、食育動画を作成中である。

(委員)

社会福祉協議会の活動は、子育て、高齢者、障害をお持ちの方を対象にしているが、コロナの間、高齢者の見守り事業が行いにくかった。また、

健康すこやか学級事業を再開しても来られない人もいます。習慣がなくなったり、参加しないでいるうちに年齢を重ねたりして参加しづらくなったりが原因で、個別訪問をして参加の声掛けをしている。

学区で工夫して行った取組として、地域の行事や情報を盛り込んだカレンダーの作成・配布や、各自が家でできるようにと脳トレ冊子の作成・配布があり、好評だった。

小学校4年生を対象とした福祉学習も中止になっているが、先日小学校から、「障害者当事者だけではなく、家庭や組織の中で介護に携わる人のお話も聞きたい」との御意見があり、今後の開催に向けてとても興味深く感じた。

コロナ禍で集まらない・できないことの多い中でやろうとする機運の高まりが新しい取組につながっている。情報を共有しながら新しい取組を行いたい。

(委員)

民生委員は、高齢者の孤立化を防ぐため見守り活動を行っており、地域を回っている。コロナ禍や、また民生委員自身も自身の体調の問題や家族の介護を抱え、地域を回ることができないため、電話で活動を実施しようとした。高齢者はいつもと違う番号で架電すると出てくれず、活動の実施が難しかった。

コロナの影響で、学区では、令和2年度・3年度は新年に向けての布団乾燥サービスが実施できなかったが3年ぶりに実施中。なかなか高齢者では難しい布団干しのお手伝いを通じて生活状況の確認を行っている。また、高齢者が希望されているのはお風呂に入ること。お風呂掃除が困難なようだ。皆さんのお力もお借りして実施につなげていきたい。

(委員)

北保健協議会連合会では、コロナの影響で学区での取組が量・規模共に縮小した。

しかし、保健衛生の分野では、コロナの関連では、区役所からの啓発ビラを学区で加筆して積極的に回覧したり、感染対応の相談を受けたりした。

環境衛生の分野では、廃乾電池・てんぷら油の回収や一斉清掃などの活動を維持した学区もあった。

(委員)

コロナの影響があっても、いろいろな事業が続けられていることがわかった。

区役所事業への要望として、今後対面で講座を開催される際には、ぜひ同時にリモートでも参加できるようにしてほしい。開催者は会場の確保が

簡単になるし、参加者側としても興味がある箇所だけ参加したい人もいる。また、京都は学生の多いまちである。学生は健康や栄養の分野について関心があってもなかなか講座には参加しにくい、リモートなら参加できる。

(委員)

健康づくりサポーターやインターバル速歩マスターとして、健康づくりに携わっている。

体操ひろばは、コロナの前は区役所西庁舎で実施していたが、コロナ感染拡大後は屋外（船岡山公園）で実施している。外は開放的で大勢を集めることができるのがメリットである。体操ひろばやインターバル速歩の参加者からは気持ちがいいとの声をいただき、参加者からも好評である。運動は楽しく継続することは大切なので、声かけをしながら活動を継続していきたい。

(委員)

各委員のお話を聞いて、地域とつながる大切さを痛感している。保育園も感染対策の面から、地域とつながりを持つ機会となる行事がなかなかできない状況であるが、その中でどうつながるか、考えなければならない。

(委員)

こんにちは赤ちゃん訪問やこんにちはプレママ事業に従事している。この二つはコロナ禍でも止まらなかった数少ない事業であり、人に会う機会がなく、孤独になりがちなお母さん方に喜んでいただけた。こんにちはプレママ事業については、経産婦の希望も増えているように感じている。

(委員)

コロナの影響で、大学の教育環境も大きく影響を受けている。

授業については、感染拡大状況によって対面とオンラインを交互に実施してきたが、今年度は受講者が100人以下の場合は対面で、100人超の場合ではリモートで講義を行っている。他には、実習が実施できなくなり、大学でのリモート授業等で代替したこともある。教員・生徒共に状況に慣れていくのは大変である。

健康面に関しては、コロナワクチンの職域接種の1・2回目を実施した。また、コロナで外出を控えるため、健康管理センターに来る学生は少なくなった。ただ、学生同士のコミュニケーションがとりにくい状況下で、うつになる学生が増加した。また、対面での授業を開始すると、通学と対人ストレスからか、却って不調を訴える学生も多くなった。

(委員)

コロナで社会的なつながりが希薄になりいろいろと問題が生じていると感じる。仕事柄高齢者に目が向きがちになるが、子どもやお母さん方も孤立しがちでストレスも大きかったのではないか。こんにちは赤ちゃん・プレママ事業等が継続されたことで、お母さん方も助かったことと思う。大学生も、学生生活を制限され気の毒であるし、先生方も御苦労されていることと思う。関係が希薄となり、コミュニケーションの大切さが改めてわかった3年間だった。

コロナ禍で利用するようになったリモートというコミュニケーションツールは、コロナ禍が収束しても、高齢者など外出しにくい人でも顔の見える関係を気づけるツールとして有効である。このピンチをチャンスとして、新たな方法として定着されたい。

これから、ウィズコロナ時代が変わっていく。コミュニケーション・face to face の関係を大切にしていけたらと思う。

(以上)